

平成30年 千葉県鉱工業指数年報の概況

(平成27年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しております。このたび、基準年次及び季節指数の改定を行った上で、平成30年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 工業班
電話 043-223-2226

概況

- 生産・出荷・在庫・在庫率ともに上昇 -

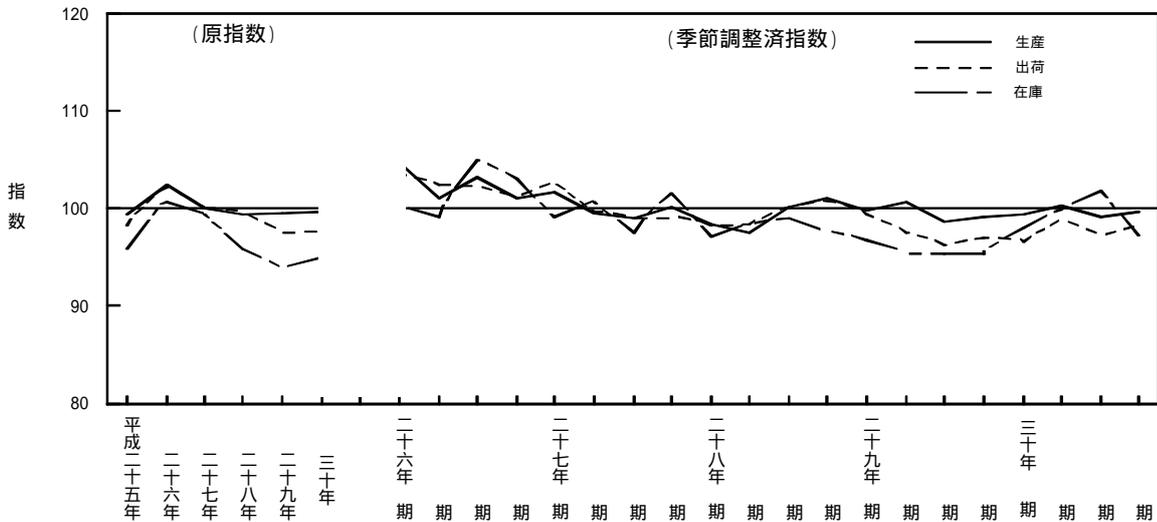
平成30年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は、99.6で前年比0.1%と2年連続の上昇、出荷指数は、97.7で同0.2%と4年ぶりの上昇、在庫指数は、95.0で同1.3%と4年ぶりの上昇、在庫率指数は、101.6で同2.1%と2年連続の上昇となりました。

平成30年を四半期別にみると、生産指数は、1期・2期が上昇、3期が低下となりました。出荷指数は、1期・2期が低下、3期・4期が上昇となりました。在庫指数は、1期・2期・3期が上昇、4期が低下となりました。在庫率指数は、1期・2期が低下、3期・4期が上昇となりました。

平成30年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、1期・2期は「在庫調整局面」に位置し、3期・4期は「在庫積み上がり局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

第1図 千葉県鉱工業指数の推移 (平成27年=100.0)

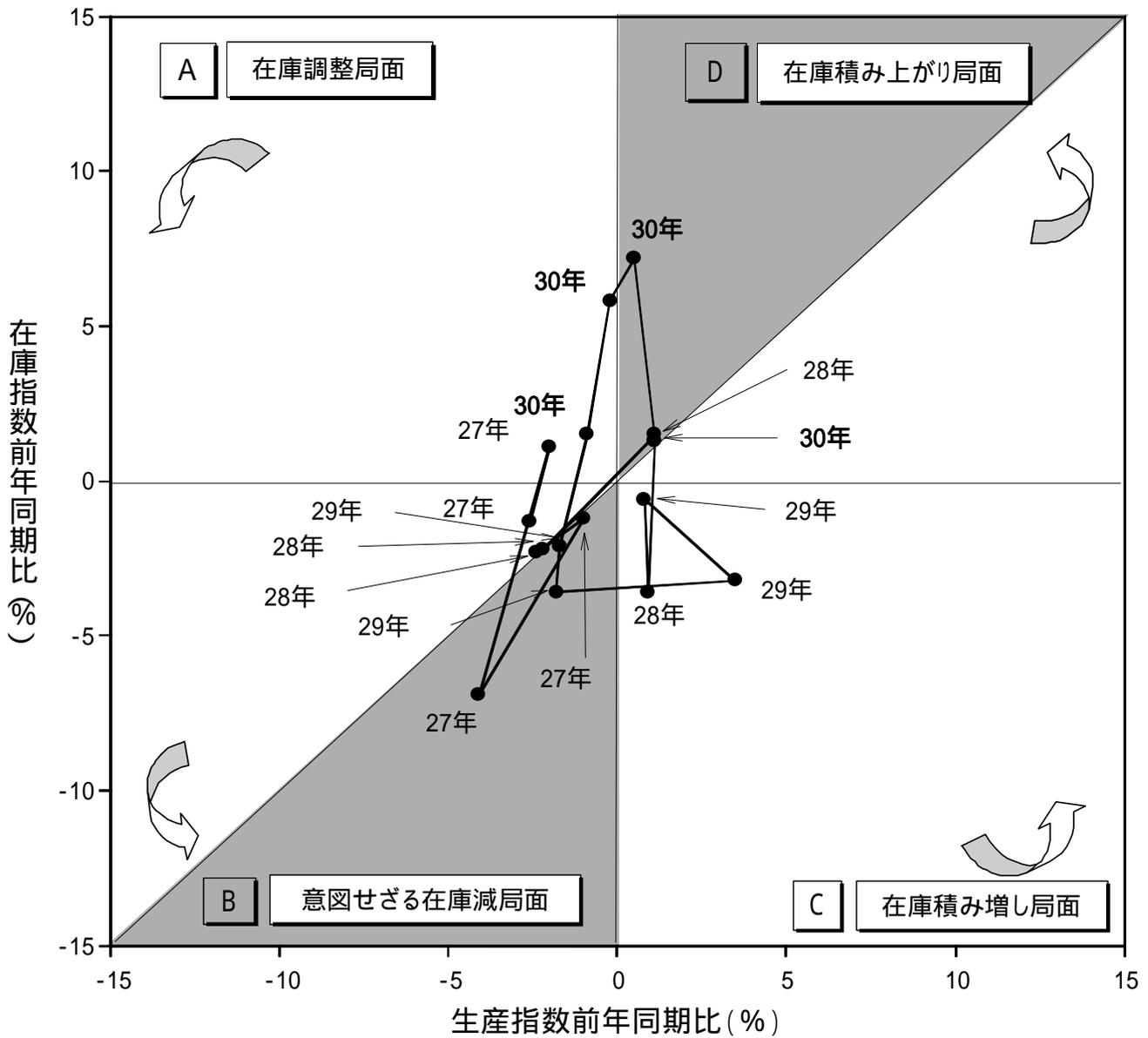


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

年・期	25年	26年	27年	28年	29年	30年	30年			
							期	期	期	期
指数							(1~3月)	(4~6月)	(7~9月)	(10~12月)
生産指数	99.4	102.5	100.0	99.4	99.5	99.6	99.4	100.3	99.2	99.6
前年比・前期比(%)	1.0	3.1	2.4	0.6	0.1	0.1	0.3	0.9	1.1	0.4
出荷指数	98.3	102.2	100.0	99.5	97.5	97.7	96.6	98.8	97.2	98.1
前年比・前期比(%)	0.2	4.0	2.2	0.5	2.0	0.2	0.4	2.3	1.6	0.9
在庫指数	95.9	100.6	99.4	95.8	93.8	95.0	98.0	99.9	101.8	97.3
前年比・前期比(%)	3.2	4.9	1.2	3.6	2.1	1.3	2.8	1.9	1.9	4.4
在庫率指数	101.9	97.5	100.0	98.5	99.5	101.6	98.4	100.8	105.6	101.9
前年比・前期比(%)	2.3	4.3	2.6	1.5	1.0	2.1	3.3	2.4	4.8	3.5

暦年指数値は原指数、四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面(在庫循環図)



各在庫局面の説明

- A** 「在庫調整局面」.....在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。(景気後退期)
- B** 「意図せざる在庫減局面」.....需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。
(景気拡大初期)
- C** 「在庫積み増し局面」.....需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。(景気拡大期)
- D** 「在庫積み上がり局面」.....供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がり起きる。(景気後退初期)

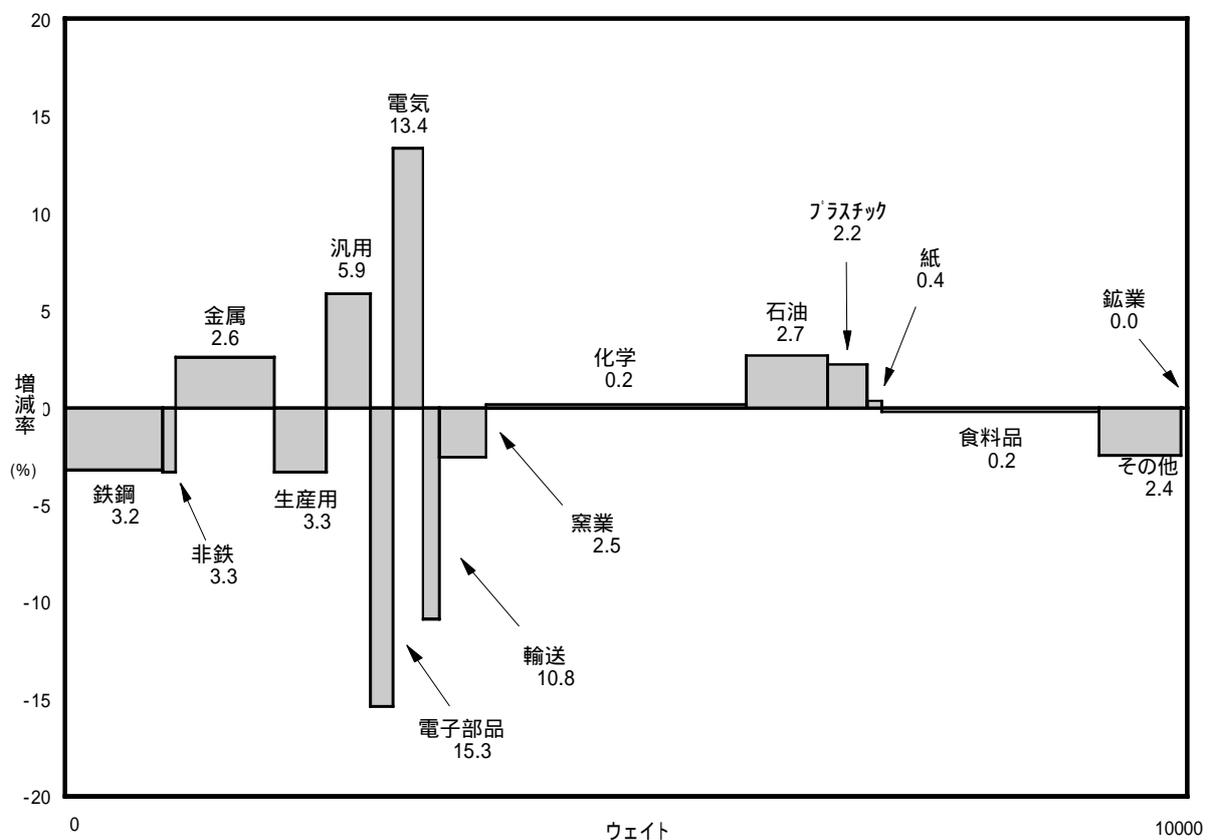
(1) 生産の動向

- 7業種が上昇, 8業種が低下 -

平成30年の生産指数は、99.6で前年比0.1%と2年連続の上昇となりました。
業種別にみると、電気・情報通信機械工業（前年比13.4%）、汎用・業務用機械工業（同5.9%）、石油・石炭製品工業（同2.7%）等7業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同15.3%）、輸送機械工業（同10.8%）、生産用機械工業（同3.3%）等8業種が低下しました。

（第3図参照）

第3図 業種別生産指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比，縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は，各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は，各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は，次のとおり略している。

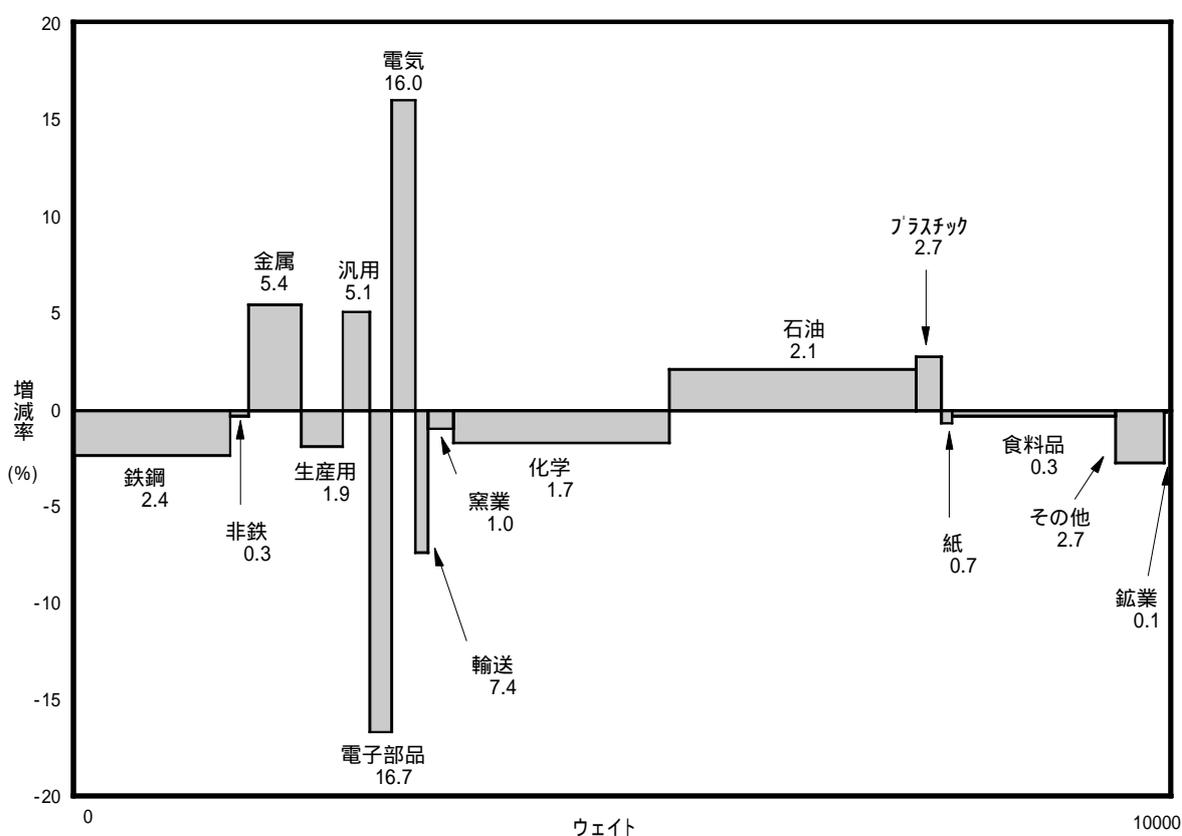
[鉄鋼]...鉄鋼業 [非鉄]...非鉄金属工業 [金属]...金属製品工業 [生産用]...生産用機械工業
[汎用]...汎用・業務用機械工業 [電子部品]...電子部品・デバイス工業
[電気]...電気・情報通信機械工業 [輸送]...輸送機械工業 [窯業]...窯業・土石製品工業
[化学]...化学工業 [石油]...石油・石炭製品工業 [プラスチック]...プラスチック製品工業
[紙]...紙・紙加工品工業 [食料品]...食料品工業 [その他]...その他工業

(2) 出荷の動向

- 5業種が上昇, 11業種が低下 -

平成30年の出荷指数は、97.7で前年比0.2%と4年ぶりの上昇となりました。
業種別にみると、電気・情報通信機械工業（前年比16.0%）、金属製品工業（同5.4%）、
汎用・業務用機械工業（同5.1%）等5業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同-16.7%）、
輸送機械工業（同-7.4%）、その他工業（同-2.7%）等11業種が低下しました。
（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（部分）は、各業種の大きさが指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。

[鉄鋼]...鉄鋼業 [非鉄]...非鉄金属工業 [金属]...金属製品工業 [生産用]...生産用機械工業
[汎用]...汎用・業務用機械工業 [電子部品]...電子部品・デバイス工業
[電気]...電気・情報通信機械工業 [輸送]...輸送機械工業 [窯業]...窯業・土石製品工業
[化学]...化学工業 [石油]...石油・石炭製品工業 [プラスチック]...プラスチック製品工業
[紙]...紙・紙加工品工業 [食料品]...食料品工業 [その他]...その他工業

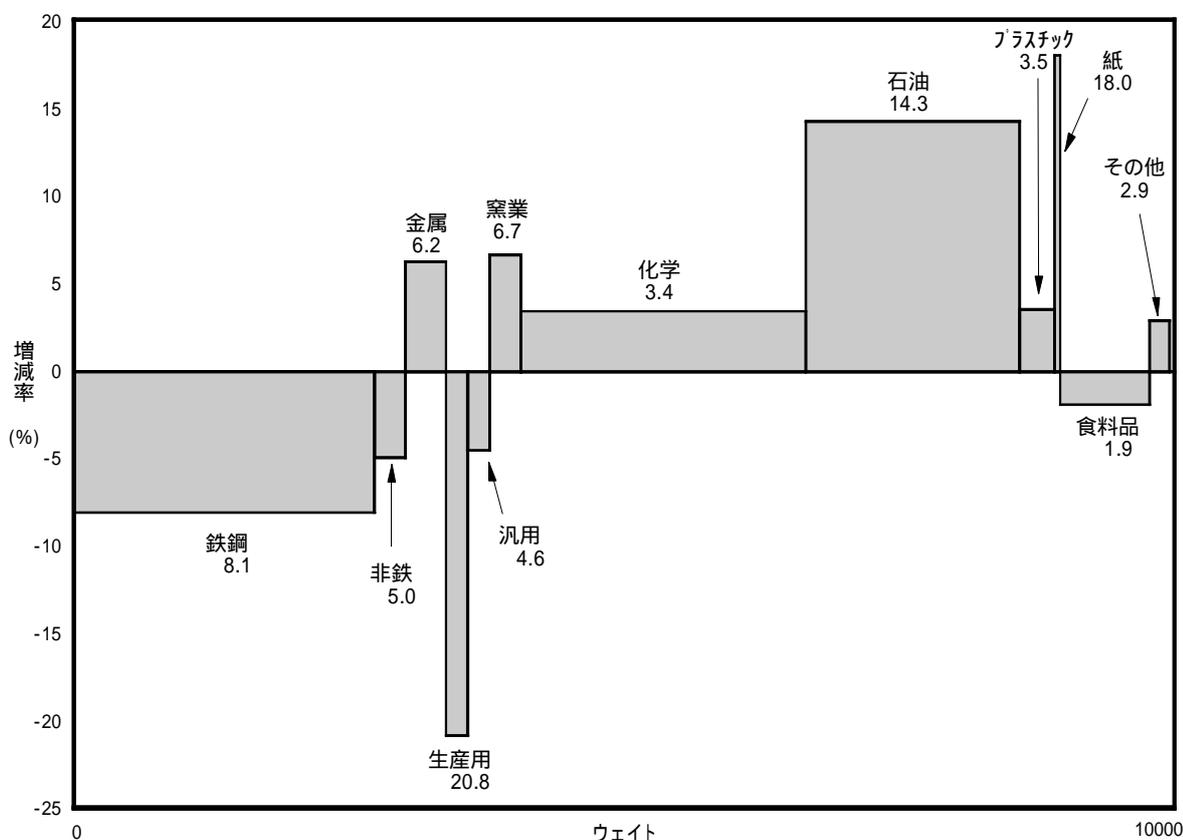
(3) 在庫の動向

- 7業種が上昇, 5業種が低下 -

平成30年の在庫指数は、95.0で前年比1.3%と4年ぶりの上昇となりました。業種別にみると、紙・紙加工品工業（前年比18.0%）、石油・石炭製品工業（同14.3%）、窯業・土石製品工業（同6.7%）等7業種が上昇し、生産用機械工業（同20.8%）、鉄鋼業（同8.1%）、非鉄金属工業（同5.0%）等5業種が低下しました。

（第5図参照）

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積（■部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次のとおり略している。
 [鉄鋼]...鉄鋼業 [非鉄]...非鉄金属工業 [金属]...金属製品工業 [生産用]...生産用機械工業
 [汎用]...汎用・業務用機械工業 [窯業]...窯業・土石製品工業 [化学]...化学工業
 [石油]...石油・石炭製品工業 [プラスチック]...プラスチック製品工業 [紙]...紙・紙加工品工業
 [食料品]...食料品工業 [その他]...その他工業

利 用 上 の 注 意

1 基準時

平成27年(2015年)を基準年としています。

指数値は、平成27年=100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは平成27年の産業構造によって算出しています。

2 用語の表示

「鉱工業生産指数」、「鉱工業生産者出荷指数」、「鉱工業生産者製品在庫指数」、「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」、「出荷指数」、「在庫指数」、「在庫率指数」と略記しています。

また、「1~3月期」、「4~6月期」、「7~9月期」、「10~12月期」をそれぞれ「1期」、「2期」、「3期」と略記しています。

3 指数値等の表示方法

(1) 指数値は、暦年別及び四半期別に算出し、表示しています。

(2) 暦年指数値及び前年比は、原指数によって算出し、表示しています。

(暦年指数値は、1~12月各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、年末の指数値です。)

(3) 四半期指数値及び前期比は、季節調整済指数によって算出し、表示しています。

(四半期指数値は、期内各月の平均指数値です。ただし、在庫指数は、期末の指数値です。)

(4) 各数値の掲載単位未満は、すべて四捨五入しています。